

## 三宅島

概況(平成16年1月)

**火山活動は全体として低下傾向にあります。**

山頂火口からの二酸化硫黄の放出量は、長期的には減少傾向にありますが、最近1年あまりは概ね横ばい傾向となっています。連続的に発生している火山性微動の振幅も長期的に小さくなっていますが、山頂直下の火山性地震の活動は継続しています。観測開始以来続いていた三宅島の収縮を示す地殻変動は、一時停止していましたが、再び収縮傾向となっています。

現在でも局所的に高い二酸化硫黄濃度が観測されることもありますので、風下に当たる地区では引き続き火山ガスに対する警戒が必要です。また、雨による泥流にも引き続き注意が必要です。

表1 火山情報発表状況

火山情報名	発表日時	概要
火山観測情報第1号 (1日1回発表)	1日 16:30	噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・ 地殻変動の状況、上空からの観測結果、 及び上空の風・火山ガスの移動予想
火山観測情報第4号	4日 16:30	
火山観測情報第5号 (1日2回発表)	5日 09:30	
火山観測情報第59号	31日 16:30	第97回火山噴火予知連絡会統一見解
火山観測情報第51号	27日 17:30	

火山ガス噴出活動及び火口内の温度の状況

1月に実施した二酸化硫黄の放出量と火口内最高温度の観測結果は次のとおりです。

(表2、図1)

表2 二酸化硫黄の放出量と火口内最高温度の観測結果

観測実施日	二酸化硫黄放出量(日量)	火口内最高温度	協力機関
1月6日	11,000トン 12,000トン 14,000トン	229	航空自衛隊
1月20日	4,500トン 3,600トン 2,800トン	178	東京消防庁

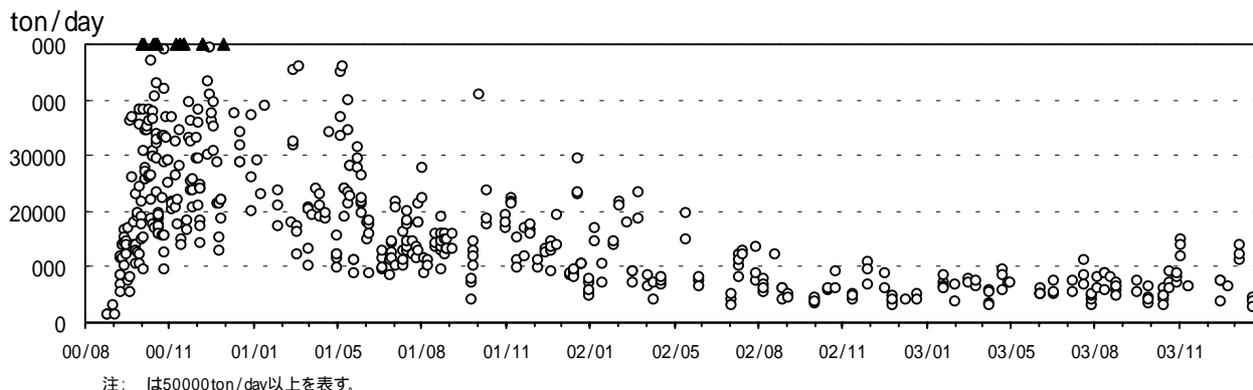


図1 二酸化硫黄放出量(2000年8月26日~2004年1月31日)

地震活動の状況

山頂直下の地震活動は、やや低周波地震の回数が2003年4月から増加し、今月もやや多い状態が続いています。23日、一時的にやや低周波地震が多発しましたが、噴煙等、他の火山活動に変化はありませんでした。高周波地震と低周波地震の活動は低い状態が続いています。

(表3、図2 - ~ -)

表3 火山性地震日別回数表 (三宅島)

上旬	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日		旬計	
高周波地震	1	2	0	1	2	2	2	0	1	1		12	
やや低周波地震	44	48	51	58	48	63	51	37	61	73		534	
低周波地震	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	
中旬	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日		旬計	
高周波地震	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0		3	
やや低周波地震	67	21	16	33	37	26	18	23	49	37		327	
低周波地震	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1		2	
下旬	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日	旬計	月計
高周波地震	0	0	1	0	0	0	1	1	1	2	0	6	21
やや低周波地震	31	42	108	52	36	30	30	43	27	30	37	466	1327
低周波地震	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	3	5

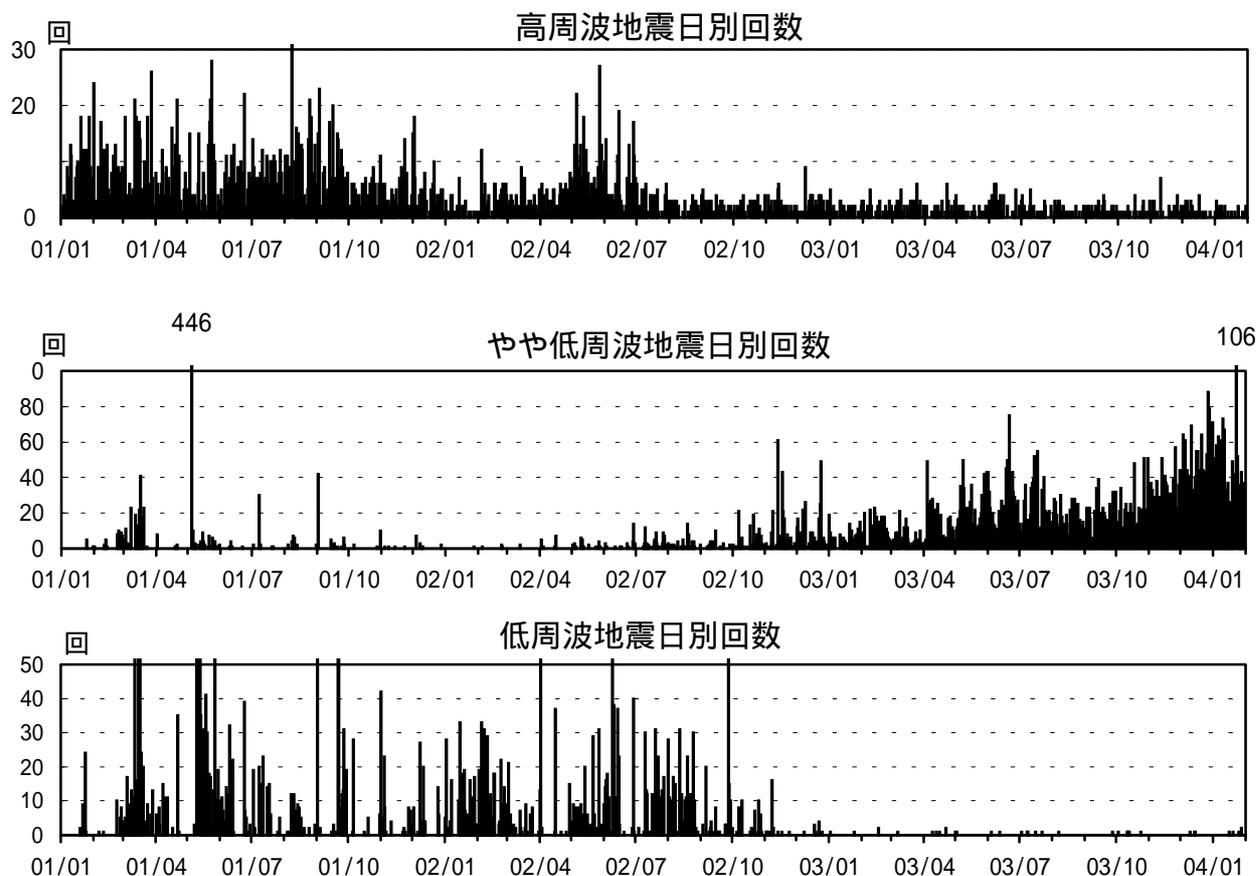


図2 火山性地震活動経過図 (2001年1月1日~2004年1月31日)

火山ガスの放出活動と関連があると考えられている連続微動の振幅は、長期的には低下傾向にあり、2003年7月末から約半月間観測できないレベルまで落ち込みましたが、その後やや増大し横ばい傾向にあります。(図3)

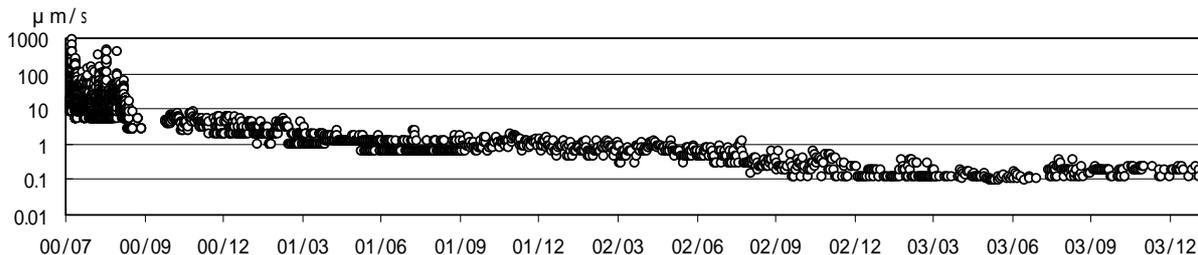


図3 連続微動の振幅(2000年7月7日～2004年1月31日)

噴煙活動の状況

依然として活発な状態が続いています。

今期間、有色噴煙は確認していません。

白色の噴煙は連続的に噴出しており、高さの最高は火口上1200m(28日)でした(図4)。

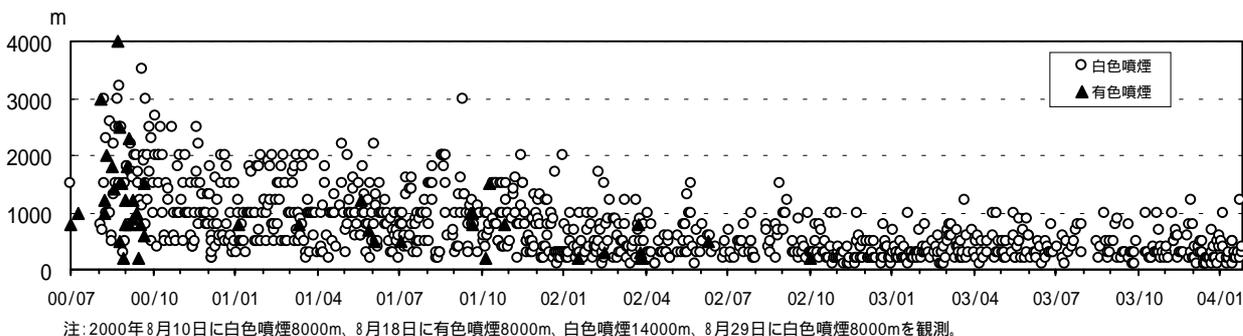


図4 日最大噴煙高度(2000年7月8日～2004年1月31日)

地殻変動の状況

GPS観測によると、三宅島の収縮を示す地殻変動は、2002年8月頃から停止していましたが、2003年6月頃から再び収縮傾向となっています。(図5 - 、 )

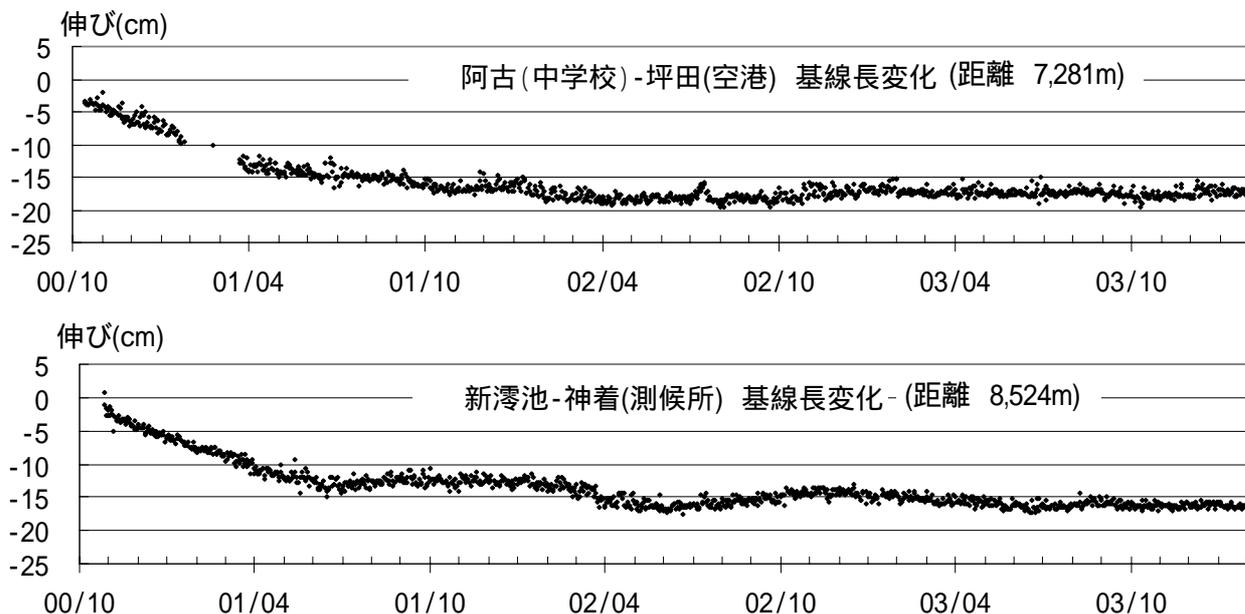


図5 三宅島GPS観測結果(2000年10月1日～2004年1月31日)

